

「76cm動作落下・キーボード全面防滴・100kgf加圧振動」

全シリーズでタフ性能を実現！

モバイルパソコン『レッツノート』2007年冬モデルを発売

松下電器産業株式会社

『レッツノート』

2007年冬モデル登場

松下電器産業は、『レッツノート』全シリーズで、冬モデル『Y7(B)』『W7』『T7』『R7』を新発売します。

松下のパソコンは、家族で使うエンターテイメント機器というよりも、ビジネスに重点をおいた設計思想で製造・開発されています。

標準でインストールされているOSとしては珍しい『Windows Vista Business』を搭載。セキュリティや安全性に優れる反面、画像、音楽、動画、テレビなどを楽しむ総合コンテンツ『Windows Media Center』は含まれないパッケージ。個人的には、松下が進める『SDLink』とPCコンテンツの連携も見てみたい気もしましたが、ビジネスシーンで使われるモバイルパソコンを目指す松下らしい選択です。

新製品の冬モデルには、「動作が安定している」との評価が高く、ビジネスの現場で未だに多く使われている『Windows XP Professional Service Pack 2』へのダウングレード権がついています。一般ユーザーにとってもOSが選べるのはメリットです。また、ダウングレード後、しばらくして『Vista』を

使いたくなったときは、付属の「リカバリーDVD」で戻すことができるので、再度OSを買う必要はありません。

何といても、『レッツノート』の魅力は、いつでもどこでも持ち運びが苦にならない「軽さ」と、電源を探さなくとも余裕を持って作業ができる「長時間駆動」、万が一の時もデータを守る「頑丈(タフ)」の、相反する性能を同時に実現させているところです。

『レッツノート』の商品コンセプトは、「軽量・長時間・頑丈(タフ)」、これに加えてセキュリティ、高性能。ユーザーの視点でモバイルを徹底追求していきたい」と、松下電器産業株式会社パナソニックAVCネットワークス社ITプロダクツ事業部テクノロジーセンタープロジェクトリーダーの坂田厚志氏は言います。



松下電器産業株式会社
パナソニックAVCネットワークス社
高木俊幸 事業部長



ITプロダクツ事業部
坂田厚志 リーダー

ノートパソコンの主な破損原因は、持ち運び時の落下、液体をこぼした、バッグ等への無理な収納、振動など。本格的なビジネスモバイルPCの頑丈性能として重要なのは、「耐落下性能」、「防滴性能」、「耐加圧振動性能」。

従来モデルの『W5』、『Y5』は「耐加圧振動」にのみ対応。『Y7(A)』も「防滴」、「耐加圧振動」までしか対応していませんでした。

新発売の冬モデルでは全シリーズで「76cm動作落下」、「キーボード全面防滴」、「100kgf加圧振動」の試験をクリアし、同一のタフ性能を実現した、とのこと。

性能面では、従来内蔵メモリ(512MB)と拡張メモリ(512MB)を合わせて1GB(=1024MB)だったメインメモリが、内蔵メモリのみで1GBとなり、拡張メモリスロットが1つ空いたことで、メモリを簡単に増設できるようになりました。動画編集や写真加工、いくつものコンテンツを同時に利用したいときはメモリの増設をおすすめします。従来通り最大2GBまで増設が可能です。

さらに、『Y7(B)』では、CPUを従来の「Core2Duo L7300(1.4GHz)」から「L7500(1.6GHz)」にアップしているため、パフォーマンスが向上しています。



14.1型高解像度&大画面モバイル
『CF-Y7』シリーズ



12.1型&ドライブ内蔵のオールインモバイル
『CF-W7』シリーズ



12.1型スタンダードモバイル
『CF-T7』シリーズ



10.4型コンパクトモバイル
『CF-R7』シリーズ

価格は全てオープン価格

全モデルインテル最新プラットフォームの採用により、低消費電力とハイパフォーマンスを両立。また、インテル社と共同開発した「Dynamic Power Performance Management Technology」と「小型軽量ファンの搭載」で、「パナソニックハイブリッドクーリングシステム」を構築し、モバイルPCの命題とも言うべき、熱によるパフォーマンスの低下を抑制、快適に利用できる時間が延長されました。

バッテリーの大容量化とともに、『レッツノート』の「長時間駆動」を陰で支えているのは、松下独自の省電力設計技術。

使用用途に合わせて複数の省電力機能を1画面で設定できる「省電力設定ユーティリティ」がさらにバージョンアップ。これにより、消費電力がさらに低減されます。

また、「無線切り替えスイッチ」により、無線LANのオン/オフがワンタッチで行え、無駄な電力を消費しません。飛行機内や近くに精密機器がある場所でも、ワンタッチで無線LANをオフにできるので重宝される機能です。同様に、スーパーマルチドライブの電源もワンタッチでオン/オフ切り替えられ、省電力に貢献します。

リチウムイオン電池は、満充電時と電池容量が少ないときに大きく劣化します。バッテリーをフル充電せず、80%に抑え



インテル株式会社
共同社長 吉田和正氏

る「エコノミーモード」を上手く活用することで、通常の約1.5倍のバッテリー寿命を実現します。

マイレッツ倶楽部の特長

マイレッツ倶楽部においては、さらに上位のCPUを選べます。『W』『T』『R』シリーズでは、標準「Core 2 Duo U 7500 (1.06GHz)」に対して「U 7600 (1.20GHz)」を、『Y』に関しては、「L 7500 (1.60GHz)」に対し「L 7700 (1.80GHz)」を選択可能です。映像コンテンツを保存しておくには心もとなかったHDD容量も標準80GBに対して160GBが選択できます。

カラー天板は、『W』『T』『R』シリーズで同一カラー展開。新色「ブラウンアンバー」と「グリーンジェイド」の2色が追加され、11色から選択できます。

また、マイレッツ倶楽部限定の最上位スペックモデル『レッツノートR7プレミアムエディション』が発売されます。カラーは「ジェットブラック」、HDD容量250GB、「インテルターボメモリ」搭載のモバイルパソコンです。



『レッツノートR7プレミアムエディション』
マイレッツ倶楽部販売価格
268,000円(税込)

「軽量・長時間・頑丈」、 タフなモバイルでグローバル展開

会場に入ると、なにやらいつもと違う雰囲気。席についてあたりを見回すと、前列には海外からの来客がびっしり座っている。

黙って始まりを待つ後列とは対照的に、前列では新製品について隣同士で楽しみに話している。その様子を見ていると、こちらまでワクワクしてくる。

今回は、『レッツノート』新製品発表会と同時に、モバイルノートパソコンのグローバル展開についての説明会も兼ねていた。世界に類をみない「軽量・長時間・頑丈(タフ)」を実現する『レッツノート』を世界の、特に欧州のモバイルPC市場に打ち出す、構えだ。

冒頭、松下電器産業株式会社パナソニックAVCネットワークス社ITプロダクツ事業部の高木俊幸事業部長から、モバイルPC事業戦略についての話があった。

松下電器産業としては、「スタンダードPC市場」ではなく、「フィールドモバイル市場」や

「ビジネスモバイル市場」に重点をおいて開発を進めていく、と高木氏。「軽量・長時間駆動・頑丈」、これに加えて、これからはワイヤレス、セキュリティが重要になってくる、という。

また、今まで『レッツノート』は国内向けに開発・販売していたが、これからは海外でも、特に欧州のユーザーに提供して行きたい、とグローバル展開に意欲を見せる。

具体的には、4点

- レッツノートの日・米・欧 同時発売
- 海外販売会社でのレッツノート販売体制強化
- 海外サービス拠点の充実
- 日・米・欧を軸にしながら展開国の更なる拡大

「国内モバイルシェア NO. 1 を維持」した『レッツノート』。次は「タフなモバイル」を渴望する世界のビジネスモバイル市場で NO. 1 を狙っていくようだ。